

株主のみなさまへ



代表取締役社長

鎌上 信也

株主のみなさまには平素よりOKIグループの経営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。第94期（2017年度）中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間の概況と通期の見通しについて

当第2四半期累計期間のOKIグループの業績は、国内向け事業については概ね順調に推移したものの、メカトロシステム事業における新興国でのATM事業の低調などにより、売上高は前年同期比53億円減少の1,940億円となりました。営業損失は、物量減や機種構成差の影響を主因に同35億円悪化の41億円となったものの公表計画値を上回り、全体としては概ね期初計画にそった結果となっております。経常損失は、前年同期に計上した為替差損が、当第2四半期累計期間では為替差益に転じたことなどから、同56億円良化の33億円、親会社株主に帰属する四半期純損失は、同89億円良化の46億円となりました。

通期の見通しにつきましては、期初公表計画を据え置いております。情報通信事業やEMS事業など国内市場向けは、引き続き順調に進捗するものと考えております。海外では、新興国のATM市場において受注の獲得を目指します。また、プリンター事業においては、事業戦略の転換および構造改革を継続して推進いたします。以上により、全体として概ね計画どおりに進捗するものと認識しております。

配当につきましては、当中間期末配当は当初計画どおり1株当たり20円を実施させていただきました。今期末につきましては、1株当たり30円の配当を行う予定です。OKIは株主のみなさまへの安定的かつ継続的な利益還元を最重要課題として取り組んでまいります。

目次	株主のみなさまへ	2	トピックス	6
	特集: 中期経営計画2019 Q&A	4	株式の状況／株主メモ	7
	2017年度第2四半期累計期間		株主インフォメーション	8
	セグメント別概況(連結)	5		

「中期経営計画2019」について

OKIは2017年5月に、2019年度を最終年度とする3カ年計画「中期経営計画2019」を策定いたしました。「安定して収益確保のできる会社」の実現のために「稼ぐ力の強化」に最注力し、持続的な成長と進化を遂げていくための基盤作りを進めてまいります。経営目標は、営業利益率6%、自己資本比率30%以上とし、最終年度である2019年度に売上高5,000億円、営業利益300億円、自己資本1,200億円の達成を目指します。各事業セグメントの取り組みについては次のとおりです。

情報通信事業は、交通、建設・インフラ、防災、医療などの注力分野において、IoTを基盤とするデジタル変革をチェンジドライバーとして、お客様、パートナー様との共創活動を推進し、社会課題を解決する新しい技術・ソリューションを提供いたします。メカトロシステム事業は、インド・東南アジアなど新興国向けの戦略商品の販売を拡大します。国内では、流通市場向けにシェア向上を目指して現金処理機の新商品開発を進めます。プリンター事業は、オフィスプリンティング市場からOKIの商品開発力を活かせるインダストリープリンティング市場に注力するニッチ戦略への転換を推し進めます。戦

略の転換に併せて、海外版社の統廃合や本社機能の見直しを行い会社組織機能の軽量化を図ります。EMS事業は、国内ハイエンド市場での継続的な拡大のため、新規領域である航空・宇宙分野で規格認証の取得拡大の取り組みを開始しています。これらの事業戦略と併せて、成長事業や新規事業に対して3年間で450億円から550億円の重点投資を行いながら、継続的かつ安定的な株主還元を行っていきます。

持続的な成長と進化を遂げていくために

OKIは安定して収益確保のできる会社を目指して、成長事業への投資・育成などを着実に実行し、持続的な成長と進化を遂げながら、さらなる企業価値向上を目指します。そして創業140年、150年と「繋ぎ続けて創る未来」を実践してまいります。

株主のみなさまには、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

業績推移(連結)

